

# 文京通信

ふみのみやこ

文部科学省認可通信教育

放送大学東京文京学習センター

機関誌 No.15

2023年2月発行



## 目次

- ・ **特集・5ページ** 私のおすすめの本 P2
- ・ 退任される先生方からのご挨拶
  - 所長 林 徹 P7
  - 客員教員 星 薫 P8
  - 客員教員 森 義仁 P9
- ・ 行事のご報告 P10
- ・ 2月、3月のスケジュール P12

### 【今回の文京通信について】

「文京通信」としては珍しく(初めて?)特集を組んでみました。教員が学生の皆さんにお気に入りの本を勧めるという企画です。ぜひご一読ください。また、3月末で退任する星先生と森先生のご挨拶もあります(そういえば、私もちょこっと書いています)。両先生には本当に長い間お世話になりました。この場を借りて心よりお礼もうしあげます。

(林 徹・所長)



所長 林 徹 先生 専門:言語学

● 福井勝義(著)『認識と文化:色と模様の民族誌』(1991年,東京大学出版会)

エチオピアのポティという部族はとんでもない数の色や模様を瞬時に区別できてしまいます。それぞれの色や模様には固有の名前もあります。なぜこんなことが可能かという謎を、現地での長期間のフィールドワークで少しずつ解き明かしていくドキュメンタリー。私たちが単なる図像にすぎない国旗や車のエンブレムを見て特別な感情を抱く理由にも繋がっていくかもしれません。残念ながら絶版ですが、放送大学図書館から借りて読めます。

● ハリイ・ケメルマン(著)永井淳/深町真理子(訳)『九マイルは遠すぎる』(1993年,早川書房)

学生のころ先輩の藤田さんに勧められて読んだ短編推理小説集。タイトルの「九マイルは遠すぎる」は、たったひとつの文から主人公の教授がとんでもない事件を明らかにしてしまうお話。その後も藤田さんからミステリーを紹介してもらいましたが、いちばん記憶に残っているのはこれ。余計な人間模様がないので気分転換におすすめです、転換したまま戻って来られない危険はありますが。

● ドナルド・C・ゴース/ジェラルド・M・ワインバーグ(著)木村泉(訳)『ライト、ついていますか:問題発見の人間学』(1987年,共立出版)

私たちは日々問題を抱えています、「本当のところ問題は何か?」と考えずにすぐに問題解決に取りかかってしまいがちです。また、「それは誰の問題か?」と考えずに自分ひとりが問題を解決しなければならないと思い込んでいます。この本は、そういうときにちょっと立ち止まるためのヒントを与えてくれました。いわゆるビジネス本ですが、栄枯盛衰の激しいビジネス本の世界にあって、Kindle版ですがまだ販売が続いているということは、それなりに支持されているようです。

● 西村義樹/野矢茂樹(著)『言語学の教室:哲学者と学ぶ認知言語学』(2013年,中央公論新社)

言語学、特に認知言語学について、哲学者の野矢先生が生徒、言語学者の西村先生が先生となって対談した本。野矢先生の鋭い質問を受けて、かなり真剣なやりとりが続く箇所もあり、入門書かと言われると微妙です。ただし、日頃気にしていないちょっとした表現の認知言語学的説明は、割とすっと入ってくるのではないのでしょうか。西村先生には来年度面接授業を担当していただく予定です。

客員教員 森 義仁 先生 専門:化学

わたしは日ごろ、大学で、「自然科学」を対象にお仕事として教育や研究をしています。その一方で、保育所や幼稚園の管理者(所長や園長)を兼任してきました。子供の遊びに科学する心を見るような場面が多くあり、遊びと真面目の境目を見るように気分でもありました。園長室の書庫には、100年前に少年少女に向けて書かれた物理と化学の実験書があり、科学する心を育てるこのことの重要性が示されていました。今回は、科学する心に関連して、わたしが持っている本から3つご紹介したいと思います。

● 池澤 夏樹、「科学する心」(集英社インターナショナル、2019)

作家池澤夏樹氏が自然科学に対して長く抱いてきた自身の心を文字として表した本です。現代の自然科学を学習しようと本を手にとるとき、そこに書かれていることが、日常との距を感じる人は少なくないと思います。自然科学の歴史の最初には、その対象は日常であり、人が実感することのできるものでした。今、一度、人が実感できるところから自然科学をはじめてみることの重要性が書かれてあり、その出発点として料理を勧めています。

● ピーター・J. ベントリー「家庭の科学」(新潮文庫、2014)

ある日常の一日、朝目覚め、そして夜寝るときまでの出来事が一つの本にまとめられています。日記に残された一日のような本です。忙しく生きるわたしたちにとって、その一つ一つが普通のことで、それらがどのように説明されるかに出会う機会

は少ないです。それらの多くのことは科学と技術によって説明できます。そうはいつても説明を読むには時間が必要です。追いつていられるような日々の中で、自身の日常を今一度、考えてみるにはよい本です。

● **ロエスキー、メツケル「化学実験とゲーテ……～化学をおもしろくする 104 の方法」(丸善、2002)**

この本を手にとりページを開くとよくある化学の実験書かなと思われます。しかし、よく見ると、一話一話に、文学作品からの抜粋が添えてあります。それは、そこで紹介している化学実験に関連し、文学者が関心を持ち、自らの作品に、その記述として残したものです。科学実験は教科書に書かれたように行い、理解し、表現しないとイケないものではなく、本来は多様なアプローチがあってもよいことを主張しているのがこの本ではないかと思ひます。独自のアプローチを試みた代表格としてゲーテです。ゲーテは詩人？そうではなく、ゲーテは自然科学者を自認しています。ただ、当時の自然科学の権威が受け入れなかつただけのようです。

**客員教員 星 薫 先生 専門:心理学**

私は旅行が好きで、面接授業で全国の学習センターをお訪ねしていた頃には、そのたびにあちこちを巡ったものでした。ところが、昨今の状況はそうした気軽な旅行をさえ、許してくれず、家に籠ることの多い日々を過ごさざるを得なくなりました。その分、家で本を読む機会が増え、ふと気付いたのですが、本を読むというのも、一種の旅なのかもしれないと思うようになりました。確かに、大きな荷物を持って乗り物に乗って出かける旅は、ワクワクしますけど、代わりに疲れるし、トラブルもあるし、お金もかかります。一方、本の旅は、おいしい物に巡り合うことはできませんけど、時空を超えた世界への旅を可能にしてくれます。私の、そんな本の旅のいくつかをご紹介します。

● **「チベット旅行記」 河口慧海著 講談社学術文庫**

河口慧海は黄檗宗のお坊さんですが、明治中期に仏教の原典を求めて、当時鎖国していたチベットへと密入国するのです。密入国ですから、ことは簡単ではなく、まずインドで 2 年間、チベット語を学習します。次いで、インドからヒマラヤ山脈を越えて、はるばるチベットまで、徒歩で向います。現在、ジープで同地を越えるのでさえ、かなりの冒険ですが、今から 100 年前に、徒歩で向かうのですから、その苦勞は推して知るべしです。今は無きチベット王国での人々の暮らしも実に興味深いものです。当時のチベット人というのは、結婚式の時を除いて、一生お風呂に入ることがなかつたのだそうで、清潔好きの日本人には想像のつかない生活をしていたようです。日本人である慧海にも、そうしたチベット人たちの生活は、あまり好ましく映らなかつたようで、彼のチベット人評は、かなり手厳しいものでした。

● **「今昔物語集」 本朝世俗編 全現代語訳 武石彰夫訳 講談社学術文庫**

これは旅行記ではありませんけど、今から千年前の、乱世だった平安末期の日本への旅と言えるのではと思ひます。今昔物語と言うと、中高生の時代に、日本史か古文の時代のあまり面白くない思い出の一部として、その名を思い出す方も少なくないかもしれません。でも、現在この本は私たちにも簡単に読める現代語に訳されて、苦勞することなく読めるようになっています。もちろん全巻読破など、到底お勧めできませんけど、その中の本朝世俗編という部分は、天皇や大臣たちのような高位の人々から、狩人、ひさぎめ(行商の女性)、泥棒などの庶民まで様々な登場人物についての、それぞれは短いのですがたくさんのお話からなっています。それで今昔物語を「日本のアラビアンナイト」と称した方もあるそうで、当時の人々の生活を生き生きと物語っています。

● **「千一夜物語」 佐藤正彰訳 ちくま文庫**

今昔物語が日本のアラビアンナイトだとすると、こちらは本物のアラビアンナイトです。私たちはアラビアンナイトと言うと、アラジンや、シンドバッドといった登場人物が活躍する、子ども向けの物語を思い出しますが、本来は決して子どもたちだけのお話ではありません。シャハリヤール王という王様のお妃であるシャハラザードが、毎夜王様に物語を語る、そのお話ですから、聞き手は大人である王様なのです。この王様は、女性不信のために、毎日違う女性を寝室に招いては、翌日その女性を殺すということが続けていたのですが、シャハラザードが語る物語が面白くて、次が聴きたくて彼女だけは殺せずにいたのです。彼女の語る物語が、千一夜物語と言われるものだったのです。

## 客員教員 細谷 浩史 先生 専門:原生生物学、細胞生物学

客員教員の先生方による「おすすめの本」を文京通信で特集する、と学習センターよりご連絡を頂きました。「学生さんから先生方のおすすめの本を聞きたいという声は多く、普段から①たくさん本をお読みになる先生方が、本の紹介を通してメッセージを伝えて頂く事で学生さん達への②応援になると思い、ぜひ先生方のおすすめの本をご紹介して頂ければ」とも申し添えがありました。②はとても大切で、早速センターに「③寄稿了解」をお伝え致しました(丸数字は筆者による)。ところが…。

最近専門分野の英語論文を読むばかり、お薦めできる「最近の本」自体を思いつかず、昔の事ばかり思い出します。大昔(大学時代)私が深い感銘を受けたのは国際関係論(衛藤瀋吉教授)の講義でした。講義では、高校出たての私ですら感じていた「日本の常識はどこか外国と違うぞ」という感覚が明快に分析されていき、先生の著書『無告の民と政治』(1973,UP 選書)、更には『日本の進路』(1969,UP 選書)で更に理解が深まりました。読書に弾みがつくおまけもつき、「日本の勉強秀才が外国では…」を熱く語る松山幸雄氏の著書『勉縮のすすめ』(1978,朝日文庫)や『日本診断』(1981,朝日新聞)に繋がり、私の国際感覚が磨かれた事は間違いありません。

……ここで手持ちが尽きた私は、ようやく上記の①を読み落としていた事に気づきました。しかし、②は大切です。③も済ませてしまっています。後に引けません。そこで、起死回生、私のお薦めの最近の書! :多くの高校生が知っている『生物』の教科書(啓林館、実教出版、第一学習社、東京書籍など多社から出版)。マサチューセッツ工科大学(米国)では、生物学を専門としない学生(同大には文系学部もある)に対しても生物学の講義受講を義務付けている様子です。それは、生物学の知識・考え方を学んでおけば、④文系学生であっても社会に出た後最先端のバイオテクノロジー分野の理解が容易となり、同分野の発展が促進され技術立国の重要な礎となる、という考えから来るとの事(『カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書』(2021, 講談社)の前書きから)。その事を頭に入れ、我が国高校生物の教科書を紐解くと、日々報道される最先端生物学のニュースの理解に何と役立つ事か! これこそ、生命科学の時代に必携の座右の書であると考えた次第です。但し精読すると、どの教科書でもミトコンドリアは(いまだに)皆様ご存じのソラ豆型のまま。受精後の拡大模式図も、精子の頭が卵内に突入した時点でおしまい。何故かという……、あっ、字数が尽きそうです。この続きは茗荷谷で皆様に直接お話し致します。

因みに衛藤先生は『日本の進路』で、「本当は医者になりたかった。その前に人間理解が重要、哲学・思想・歴史を学ぼうとまずは文科に進んだ」と述べています(何となく④に繋がります)。先生のその後については同書をお読み下さいませ。

## 客員教員 河村 哲也 先生 専門:情報科学、計算物理学

「文京通信」の特集で「おすすめの本」を組むことになり原稿を依頼されました。読書家では全くない私が、皆さんに特定の本をお薦めするのはとても心もとない話ですが、少しでも参考になればと思い、何冊か推薦したいと思います。

まず、第一に心に浮かぶのは「徒然草」です。700年近く前に書かれた本ですが、現在いろいろな年代の方が読んでも新しい発見があり、またためになる本だと思います。著名な評論家の小林秀雄も著書の中で、徒然草が書かれたことは「純粋で鋭敏な点で、空前の批評家の魂が出現した文学史上の大きな事件である。僕は絶後とさえ言いたい。」とまで絶賛しています。全部で243段あり、とても短い文から少々長い文までいろいろ混じっています。最初から順番に読むのではなく好きなところを気分に応じて読んで、そしてじっくり考えるというのがよいかと思います。たとえば第127段は「改て益なきことは、改めをよしとするなり」というたった一文です。

前職の大学では6年ほど大学運営に携わったことがあります。文部科学省のみならずいろいろな外野から、ことあるごとに(例を出しながら)大学改革せよとせまられます。そのときよくこの段が思い出されました。原文で読んでじっくり味わうのが一番(たとえば岩波書店:新日本文学大系 39)ですが、中高生向きに現代語に訳した本でなかなかよい本があります(抜粋ですが、講談社:21世紀版少年少女古典文学館 10)。

どちらの本にもいっしょに「方丈記」が入っています。私は京都市伏見区で生まれましたが、わりと近くに作者の鴨長明の庵跡があるため(里)山歩きのと看度何度か立ち寄ったこともあり、私にとって親しみ深い本です。私くらいの年齢になると胸に沁みます。あと、日本人の美的感覚に鋭く切り込んだ谷崎潤一郎の「陰翳礼讃」も味わい深く私の大好きな随筆です。有名ですの

でいろいろな出版社から出版されていると思います。

最後に専門の物理・情報についてですが、一般向きに書かれた本として物理学天才列伝上下(講談社:BLUE BACKS B-1663,B-1664 W.H.Cropper 著、水谷淳訳)を挙げておきます。ニュートン、マクスウェル、アインシュタイン、…物理学史上に燦然と輝く大天才たちの業績内容がわかりやすく解説されているだけでなく、書名からもわかりますが、人となりまで書かれています。



## 客員教員 永原 恵三 先生 専門:音楽学・声楽

### 1)専門分野の音楽学から1冊

小野真龍 2019『雅楽のコスモロジー -日本宗教式楽の精神史』、京都:法蔵館、2,200 円+税

西暦 752 年の日本で、一大イベントが開催されました。それは東大寺大仏開眼供養です。絢爛豪華な音楽と舞が奈良の東大寺を舞台に繰り広げられたのです。しかし、その情景を現代の日本ではもはや再現できません。本書は、雅楽という日本伝統音楽の奥底から見える日本人の宗教観を明快に記したものです。

著者の小野真龍氏は、大阪にある雅楽の伝承組織(天王寺楽所)の雅亮会を率いる雅楽の演奏者で舞楽の舞手でもあります。他方、京都大学で博士号を取得した宗教哲学の研究者(小野真)でもあり、また東洋音楽学会の会員として、音楽学での雅楽研究の先端的知見をたどりつつ、音楽の理論と実践両面から日本の精神史をわかりやすく解きほぐしてくれます。本書は大学での講義録をもとにしています。

雅楽は普段馴染みがないかもしれませんが、たとえば四天王寺の「聖霊会」は現在でも半日かけて聖徳太子の供養のために、舞楽と仏教の声明の両方が奉納される行事です。これを機会に私たち日本人の身のまわりにある雅楽を探してみるのもよいかもかもしれません。ちなみに、私が雅楽に最初に触れたのは、小学校(大阪府)の修学旅行で伊勢神宮に行った時でした。その時は全く馴染みのない音で、そして今でも私の演奏する西洋音楽とは全く異なった音の世界ですが、それだけに音と舞のなせる世界は実に刺激的です。

### 2)近接分野から1冊

宮本常一 2014『イザベラ・バードの旅 『日本奥地紀行』を読む』、東京:講談社学術文庫、920 円+税

イザベラ・バードはイギリス人女性旅行家で、明治初期の日本に単独で来日し、日本人の通訳一人を連れて日本の各地を旅行してまわった人です。その旅行記である『日本奥地紀行』を、民俗学者である宮本常一氏が講読した講義録をもとに編まれたのが本書です。

明治期には日本に滞在した多くの外国人(西洋人)が、当時の日本について様々な視点から書物を残しています。これらの興味深い点は、外国人だからこそ見える日本の文化が書かれていることです。つまり、日本人にとっては当然のことで記すまでもないことが記されているのです。イザベラ・バードにしても同様です。

私が印象深かったのは、たとえば、蚤の存在です。彼女は旅の最中にどこでも蚤に悩まされたことを記していますが、日本人はそれを記しません。あまりに日常的だったからです。さらに現代の生活では蚤に悩まされるのは想像できないことです。また、旅館での三味線の音にも違和感を抱いていることも記されています。

民俗学者としての宮本氏の著書は『忘れられた日本人』(岩波文庫)が代表的ですが、宮本氏は人びとのありのままの姿を丁寧に記す人であり、語られたり記されたりしないけれども、人びとがこのようにして生きている、ということをつねに温かい眼差しで、しかし冷静な視点で書き記した人であったと思います。

本書は、イザベラ・バードという外国人の視点と、宮本常一氏という民俗学者の視点の両方を味わえる点で、興味深いと思います。

## 客員教員 梅谷 博之 先生 専門:言語学

### ● 松井孝典(著)『コトの本質』(2006年,講談社)

研究において「きわめる」とはどのようなことかを教えてくれる本です。加えて、研究者として心掛けるべき本質的なことも書かれています。それら全てのことを卒業論文執筆や日頃の学習のために今すぐ役立てられるとは限りません。しかし、結果が出るまで発想を出し尽くす必要があること、何かをする場合まずは手あたり次第やってみる必要があることなど、研究・学習のしかたに迷ったときに参考になることも書かれています。私も、この本に書かれてある「きわめた」状態に少しでも近づきたいです。

### ● 梅棹忠夫(著)『知的生産の技術』(1969年,岩波書店)

情報の整理・管理方法のヒントを与えてくれる本です。この本が出版されたのはコンピュータが普及する前で、コンピュータを使った方法は載っていません。「古典」と呼んでよい本かもしれません。しかし、今でも通用する考え方を学ぶことができます。私の個人的な話で恐縮ですが、コンピュータを使った情報整理・管理が自分にあまり合わず、この本に書かれてある方法を今でも活用しています。

### ● 千野栄一(著)『外国語上達法』(1986年,岩波書店)

この本もコンピュータやインターネットの普及前に書かれた本です。この本が書かれた時よりも今のほうが外国語学習の環境は格段によくなりました。今では当てはまらなくなった記述も所々あります。しかしこの本には、外国語を学ぶ上で参考になる哲学のようなものが書かれています(もちろん実践的な技術も載っています)。外国語を習得する目的をはっきりさせ、学習意欲を高めるために読むことをお勧めします。



## 客員教員 小山 玲子 先生 専門:子ども学

私は手軽に読める文庫本や新書から選んだ本を紹介いたします。

### ● 宮口幸治(著)『ケーキの切れない非行少年たち』(2019年,新潮社)

タイトルが気になり購入しました。精神科医、臨床心理士。精神科病院、医療少年院での勤務を経て、現在大学教授である著者が、今までに出会った少年たちの状況をまとめています。非行少年たちの特徴を幼児期、小学校、中学校時代に把握し、適切な対応ができなかったのだろうか、どのような関わりが必要だったのか、支援とは…といろいろ考えるきっかけになると思います。続編の『どうしても頑張れない人たち』(2021年,新潮社)もあります。

### ● 堀内都喜子(著)『フィンランド人はなぜ午後4時に仕事が終わるのか』(2020年,ポプラ新書)

スウェーデンやデンマークには行ったことがありますが、フィンランドはまだ訪れたことはありません。3年前に『スウェーデンの保育園に待機児童はいない…東京創元社 久山葉子著』を読み、スウェーデン人の働き方に対する考え方は日本とは大分違うと感じました。それでは、2018年、2019年「幸福度ランキング世界1位」のフィンランドでは、仕事を含むライフスタイルはどうなっているか知りたいと思い購入しました。日本人は働きすぎでは…。日本のシステム・枠組みはなかなか変えられませんが、その中でも人々の意識が変わることで、もっと暮らしやすい社会になるのではないかと感じます。自分の気持ちに余裕を持ち、人生をもっと楽しみたいですね。

### ● ダニエル・キイス(著)小尾英佐(訳)『アルジャーノンに花束を』(2015年,ハヤカワ文庫NV)

ご存知の方が多くと思います。私は約30年前に読み、その後10年位前に再び娘と読みました。幼児の知能の持ち主の心優しい青年チャーリーが主人公の話です。同じ世界に生きていても、見る世界が違う苦しさとは…、幸せとは何か…を改めて考えさせられます。

## 退任される先生方からのご挨拶

### 「5年間お世話になりました」



#### 東京文京学習センター 所長 林 徹

2018年4月に東京文京学習センターに所長として赴任してから5年が過ぎようとしています。今年3月31日で任期が終わり、4月からは熊野純彦先生に引き継ぎます。偶然ですが、熊野先生には東京大学文学部でたいへんお世話になりました。熊野先生が研究科長・学部長をお勤めの際には、副研究科長としてお手伝いもさせていただきました。熊野先生の任期中には、学部組織の改編など、立場や教育分野により見解の異なる複雑な課題が少なくありませんでした。しかし、優れたリーダーシップと調整能力で、ひとつひとつ課題を乗り越えていく姿は、いまでも鮮明に覚えています。そんな方に新所長になっていただけることは、私にとって望外の喜びであり、当センターにとってもたいへん幸運なことと思っています。

当センターに赴任する少し前から現在まで、私個人の人生ではかなりの変化がありました。当センターに赴任する半年前の2017年秋に父を、翌年には義父を亡くしました。東京大学を退職した2018年3月には、それまで数十年に亘り集めてきた蔵書の大半を捨てました。わずかな一部は研究室に寄贈し、希望する学生たちにも引き取ってもらえましたが、ほとんどの本は引き取り手がなく、今後入手や閲覧が困難と思われる本を除いて、廃棄せざるを得ませんでした。また、2020年には母が亡くなり、空き家となった実家を今年取り壊しました。

しかし、それほど喪失感を感じることはありませんでした。確かに、人の死や長年見慣れたものがなくなってしまうのはつらいことです。しかし、学習センターでの仕事があったおかげで、それらがなくなったことによって生じた空白を、新しい経験や記憶がどんどん埋めていってくれました。特に、多くのすばらしい学生の皆さんと知り合えたことは、仕事への大きな原動力となりました。

とは言え、学習センターでの仕事は簡単なものではありませんでした。社会の関心や要望、生活スタイルの変化、そして技術革新などに伴い、学習センターに求められる役割が大きく変化し始めていることに加え、新しい感染症へも対応し続けなければなりませんでした。そのなかで、曲がりなりにも所長を務めることができたのは、客員教員の先生方をはじめとして、多くの方々の協力があったからでした。特に、学習センター職員のみなさんは、新型コロナウイルス感染症の対策としてビデオ会議システムを使った授業や講演会、オンラインでのファイル共有やアンケート実施、多数の受講者や受験者が集まるなかでの感染対策など、多岐にわたる新しい取り組みに短期間で対応してくださいました。あまり待遇が良いわけではない放送大学学習センターという職場で、献身的に業務を担っていただいたことに、心よりお礼をもうしあげます。

今後、熊野新所長のもとで、東京文京学習センターがさらに発展し続けることを確信しています。5年間たいへんお世話になりました。再会できる日が来ることを願っています。それまで皆さま、どうかお元気で。

## 「退任のご挨拶」

客員教員 星 薫



今年の3月末で、文京学習センターの客員教員を退任致します。退任すべき年齢に達したからですし、私が主任講師を務めていた科目の開講期間が終わり、主任講師としての務めを終えたからでもあります。いよいよ本当に、放送大学とのお別れの時を迎えました。

私は今から8年前に、放送大学の専任教員を退職し、その後文京学習センターの客員教員としてさらに8年間、放送大学とお付き合いを続けました。つまり、放送大学とのお別れという意味では、今回は二度目ということになります。考えてみれば、ずいぶん長く放送大学とお付き合いを続けたものです。お仲間の先生方が、他の大学へと移っていらした中、ずっと放送大学に留まり続けた理由はたぶん「寂しくなかったから」ということのような気が致します。他の大学で、非常勤講師を経験するたびに、いつも感じていたのは、学生、特に20代初めの若い学生たちと教師との間にある越えられない「壁」でした。もちろん、非常勤でなくて、専任の教師であれば、若い人を育てる喜びがあることでしょう。それにしても、自分たちとは年代の違う若者たちの中にいれば、当然、自分は仲間ではありません。それは、大学という人の集まりの中にいながら、その中で「寂しさ」を感じさせられる要因でした。

これに対して放送大学では、学生と教師が一緒にいても、どれが教師でどれが学生か判別できることはまずありません。まさに「メダカの学校」でした。しかもそれは、単に見た目で判別できないというだけではありませんでした。教師は確かに、自分の担当分野に関しては、他の学生と違うかもしれないかもしれませんが、それぞれの学生は、別の世界では、教師が持っていない様々な経験や知識を持つ人達でした。だから、放送大学の学生さんたちとお付き合いをすることは、私の知らない様々な世界の、実に多様な知識を教えてもらえる場でもありました。だから私は、決して一方的に「先生」だったのではなく、私が学生さんたちにお教えしたことの何倍もの事柄を、私は周りの学生さんたちから教えられました。また、学生さんたちは、年代的にも私とさほど変わらない（最近はお私の方が年長のことが多いですが）方々ですから、教師と学生という壁のない、学び合うお仲間同士になることができ、その結果私は「寂しく」ない、教師生活を送ることができたのです。

文京学習センターの客員教員として、最も忘れがたいのは「学習相談」の機会に出会った、数多くの学生さんたちではないかと思えます。学習の相談なのですが、話をしているうちに、ご本人やご家族の抱えるさまざまな重荷についても、お話の中に出て来ることが少なくなく、ここもまた私にとっては貴重な学びの場になっていた気が致します。私にとって、多くの学生さんたちとの出会いこそが、教師としての長い日々の中での、最高の宝物だったのだと思えます。学生の皆さんには本当に感謝に耐えません。



## 「百見は一試に如かず ～新しい景色～」

客員教員 森 義仁



文京学習センターのみなさま、こんにちは、森義仁です。2018年4月から2023年の3月までの客員教員任期も残りあと数か月となりました。林所長の補佐としてのお仕事の中でも、客員教員ゼミは今後も記憶に残るものとなりそうです。それは、ある時はセンターで、またある時はオンラインで、共に実験を楽しむ時間を持てたことです。そのきっかけは、

2018年に偶然に出会った一冊の実験本です。その本は大正14年に発行され、自宅で実験することを青少年に勧めるもので、約130の実験が提案されています。書名は「容易く出来る理化学実験」、著者はお茶の水女子大学附属幼稚園七代目園長の堀七蔵先生です。本の最初のページの要約は、“最近（大正14年）ではいろいろなことができるようになってきましたので、よく言われる「百聞は一見に如かず」に、「百見は一試に如かず」を加えてもよいのではないかと、そして、そこでは、実験のための道具など実験条件を探す過程での発見や工夫があり、それらが、実験への意欲をますます高めるものとなるだろう”になります。そのため、この実験本ではこうすれば成功することが隠されています。昔ながらの名言「驚きは意欲」を思い出させる書きぶりです。

わたしはこの話を、外出が思うようにならない2020年に、林所長が企画されたオンライン講演会で、実験動画と共に紹介をいたしました。その後、オンラインでの客員ゼミに集まったみなさんを在宅実験にお誘いしました。自宅で実験を行い、ビデオや写真として記録して、オンライン上で集まった仲間の中で披露するわけです。記録の道具としては、保存や編集に威力を発揮するスマートフォン、また今や持つ人を見かけることが少ないデジタルカメラでも十分に役立ちます。2020年当時、わたし自身はデジタルカメラで記録をしていました。みなさんも実感しておられるように画像データの記録容量は大きいものです。それにも関わらず、たくさんのデータを保存できるのは、記録用メモリ（SDカード）のおかげです。そして、高速インターネットと高速処理できるパソコンやスマートフォンはオンラインに不可欠です。実験の課題そのものは100年前でも、スマートフォンやデジタルカメラやインターネットを使うと、新たな側面が見えてくる、今風の表現では「新しい景色が見えてくる」と期待できます。このことは、ニールセン氏が、著書「オープンサイエンス革命」で、大容量データを共有できるインスタグラムなどのSNSを使い、実験結果を特定の専門家だけのものから多くの人にとり共通のものとする新たな発見に繋がる可能性があるとして指摘しています。ゼミの仲間のY氏のインスタグラム（[iroiro\\_jikken](#)）を開くたびに、確かに、「驚きは意欲」を実感します。また、どこかでみなさまと実験をご一緒し「新しい景色」を見る機会があればうれしく思います。ありがとうございました。

## 行事のご報告



### 研究成果発表会(オンライン)

2022年8月7日、東京文京学習センターと東京学友同窓会の主催で、令和3年度に卒業論文・修士論文を提出した方による研究成果発表会が、東京文京学習センターにて初めて開催されました。当初、対面で行う予定でしたが、新型コロナの感染拡大を受けてオンラインに変更になりました。半年以上前から計画を進めて、9名の方に以下の論文を発表していただきました。発表者への質問も多く、学生の皆さんの関心の深さが伺えました。

#### 卒業論文

- 「欧米における緑色に対するネガティブなイメージはどこから来たのか」
- 「東証マザーズ売上高上位 100 社の特許出願データに基づく企業の発明推移と傾向の考察」
- 「地元紙で見る教員の信用失墜行為について」

#### 修士論文

- 「定年期キャリア移行を通じた肯定的展望成立プロセスの探索」
- 「グリーンケア活動を意味づけていくプロセスについて：若手心理職へのインタビュー調査から」
- 「欧化政策における洋装の受容：宮中における洋装化を中心として」
- 「流出した日本美術：明治期の文化財保護」
- 「オーケストラ指揮者の仕事について：名演奏が成立する時、その演奏にはどのような現象が生じているのか」
- 「肢体不自由児教育における重度障害者用意思伝達装置活用の現状と課題」

#### 【Zoomで視聴した方の声】

- 🍀 大変有意義な発表会だった。 🍀 進行がとてもスムーズで、時間配分もよかったので発表内容に集中できた。
- 🍀 卒業研究を選択するとどのようになるのかということ、研究のプロセスについてのイメージが湧いた。
- 🍀 文献の量、資料の質、適切な分析方法、このすべてが揃ったときに研究が成立するということを理解できた。 🍀 それぞれテーマがユニークで面白かった。 🍀 理系の論文も聞きたかった。各コースの論文があればよいと思う。 🍀 研究テーマは異なってもプレゼン方法や質疑に対する対応はとても参考になった。



### 卒業証書・学位記授与式(対面+オンライン)

2022年9月18日、卒業証書・学位記授与式が対面とオンラインのリアルタイム配信で行われました。東京文京学習センターで行われた式典は3年ぶりで、当日は台風で生憎の大雨でしたが、足場が悪い中、40名程の卒業生の方にお越しいただきました。天候には恵まれませんでしたでしたが、皆さまの笑顔に彩られた華やかな式となりました。

卒業証書の授与の際は、林所長が卒業生全員のお名前を読み上げました。そして所長、客員教員、学友同窓会長からの祝辞が送られました。大変な思いをして卒業された方も多く、「この日を迎えられたことに幸せを感じる」「一人ずつ名前を呼ばれて証書を受け取れるとは思っていなかったため嬉しかった」などお喜びの声を、またZoomで視聴された方からは、「名前を呼ばれ、卒業の実感がわき、嬉しかったです」などの感想が寄せられました。



#### 【卒業生から在校生へのメッセージ】

- 🍀 様々な年齢の方がいる中で自分よりも年上の方が授業や試験を受けている姿を見て、まだまだ自分も頑張らなければという思いが励みになりました。
- 🍀 学ぶことの楽しさ、面接授業を通し世代をこえた人との交流は人生を豊かにしてくれています。
- 🍀 卒業ではじめをつけることが案外大切
- 🍀 自分のペースで学び続けて楽しい毎日を送りましょう！





## 公開講演会(対面)

2022年9月25日、非常勤講師の春風亭昇吉師匠の公開講演会が行われました。定員100名の募集でしたが、抽選を行うほどの大人気となりました。当初は、対面で行うことの不安はありましたが、生の落語をお届けしたいという昇吉師匠の強い思いがあり、皆さまのご協力のもと、大盛況で無事終えることができました。

2部構成で、前半の1時間は落語を披露していただき、後半の1時間は講義スタイルで、江戸時代の背景や落語についての基礎知識をわかりやすく教えていただきました。参加者からは、「涙が出るほど笑った」「初めて落語を見て感動した」「時そばについて今まで分からなかったことが理解できた」等、ご好評の声をたくさんいただきました。

マスク生活も長く、皆さんの笑い顔を見ることも少なくなりましたが、「笑うことは美容効果もあり、免疫力も高まる、認知症の予防にも良い」など良いことづくめです。ニコニコしているだけでも効果があるので、マスクの下でも笑っているように心がけましょう。(と、昇吉師匠が、おっしゃっていました)

テレビ番組等でも活躍されている昇吉師匠、今後の活躍に益々期待しています！

## 「落語家という知られざる世界」～古典落語『時そば』にみる江戸の時制・貨幣・食～



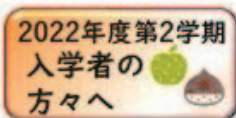
## 入学者の集い(対面+オンライン)

2022年10月2日、入学者の集いを行いました。こちらも対面は3年ぶりでしたが、対面かオンライン(リアルタイム配信)のお好きな方で参加することができ、80名ほどの入学生にお越しいただきました。

対面で参加した方からは、「校舎が大学という感じがきれい、今後も活用したい」「入学したことの実感が湧いて、誇らしい気持ちになった」「先生方の真摯で温かい思いが伝わってきた」等の感想をいただきました。

入学者の集いの後は、職員によるオリエンテーション(学習総合ガイダンス)があり、学習をスムーズに続ける方法についてお話ししました。

東京文京学習センターのウェブサイトのトップページに載っている右のボタンをクリックしてください。→  
入学者の集いや、学習総合ガイダンスの動画もご覧  
になれます。



### 令和4年度 第2学期 入学者の集い 放送大学東京文京学習センター

日時: 令和4年10月2日(日) 14:00-

会場: 東京文京学習センター 多目的講義室1

入学者の集い(14:00-14:40)

式次第 開会の辞

学歌(DVD)

学長メッセージ(DVD)

所長挨拶: 林 徹「放送大学で学ぶということ」

客員教員紹介: 河村 哲志 馬場 智彦

星 暲 細谷 浩史

森 義仁

東京学友同窓会 副会長挨拶: 井川 水史

グラメイト委員会 委員長挨拶: 中村 由美

閉会の辞

(休憩5分)

オリエンテーション: 学習総合ガイダンス(14:45-15:55)

「これからの学習をスムーズに続けていくための方法」

## 2月、3月のスケジュール



月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2月4日(土) 公開講演会(客員教員・小山 玲子 先生)

2月12日(日) クラス会

2月13日(月) 2023年度第1学期科目登録(郵送2/27まで・Web 2/28まで)



月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

3月25日(土) 卒業式・学位記授与式(NHKホール・予定)

### 2023年2月12日(日) クラス会のご案内

(対象) 2020年度～2022年度入学の東京文京学習センター在籍者の皆さま

- 日 時：2023年2月12日(日) 14:00～15:30
- 対象者：2020年度、2021年度、2022年度入学の東京文京学習センター在籍者
- 定 員：100名(先着順)
- 場 所：東京文京学習センター 地下1階 多目的講義室1
- プログラム
  - ・全体会
  - ・企画員募集説明会
  - ・懇談会



詳しくは、東京文京学習センターのウェブサイトをご覧ください。